

立ち読み版



# 中小企業白書の読み方

中小企業診断士・診断士受験生はもとより、一般のビジネスパーソンにとっても、わが国の中小企業とそれを取り巻く現状を理解することは必要不可欠である。しかしながら、白書自体は十分にわかり、初心者にはとっつきにくいイメージがあるかもしれない。本特集では、本年4月26日に公開された2019年版を中心に、白書作成経験者・中小企業診断士・資格学校講師、三者の視点から、実務家・受験生向けに白書の読み方について懇切にガイドする。また、令和元年度受験生のために、2018年版の押さえるべきポイントについても解説する。これで白書がもっと面白くなる。

- 第1部 2019年版を読む** ●安田 武彦／井村 正規／須藤 和夫／吉田 勉
- 第1章 白書の概要をつかむ——政策的インプリケーションを探る
  - 第2章 この事例企業が面白い
    - ・みずほフィナンシャルグループ
    - ・スーパーまるまつ
    - ・「連携」で活路を拓く中小企業3選
- 第2部 受験対策として読む** ●播野 晋介
- 全年度第1次試験対応
  - 第1章 白書の学習法——効率よく学習して高得点を取るために
  - 令和元年度第1次試験対応
  - 第2章 2018年版の学習法——試験委員が出題したくなるポイントはここだ！



## はじめに

平成という時代が代わる直前の2019年4月26日、閣議において「平成30年度中小企業の動向 平成31年度中小企業施策」が決定され、国会に提出された。これが、2019年版の中小企業白書である。

本稿では、まず、2019年版白書の概要を見て、その後に政策的インプリケーションを探ることとする。

もとより筆者は、2019年版に直接参画したのではなく、したがって中小企業庁が本書に込めた意味合いは知る由もない。

しかしながら、今回の白書の主張が、今後の中小企業政策に論理的帰着としてどこに至るのかについては、本論の後半に叙述したい。

と、書きながら読者にとって最も大切なのは2019年版（本稿の執筆時点ではHPでしか見られない）の内容であろう。ということで、まず全体の概要について白書に沿って紹介する。

なお、本稿を読まれて、ご意見・ご質問がある方には、幅広くお伺い・お答えしたいので、お気軽にメールを送っていただきたい。

安田武彦 t-yasuda@toyo.jp

## 1 2019年版の概要

### (1) 第1部 平成30年度（2018年度）の中小企業の動向

#### ①中小企業の動向

わが国経済は緩やかな回復基調にあり、これに伴い、中小企業の経常利益が昨年に引き続き過去最高水準にあるなど、改善傾向にある中小企業の景況などを分析した。

#### ②中小企業の構造分析

中小企業の企業数の増減や、それに伴う従業員数および付加価値の変化を分析する。足下の4年間で、存続している企業が付加価値を伸ばすことで、廃業した企業による減少分を上回って、全体で見ると成長していることなどを示した。

#### ③財務データから見た中小企業の実態

一般社団法人CRD協会のデータを用いて、中小企業の黒字・赤字や資産超過・債務超過の経年変化、業績のばらつきや拡大などを示す。また、設備投資が財務パフォーマンスに与える影響について、その因果関係を示した。

#### ④人手不足の状況

中小企業の人手不足の状況を、従業員過不足DIや有効求人倍率などから概観し、大企業と比較し